

平成 24 年度厚生労働科学研究

**集団予防接種等による B 型肝炎感染拡大の検証
及び再発防止に関する研究**

保健所長、医療従事者アンケート調査報告書（中間集計）

目 次

1. 調査の概要	1
1.1 調査方法	1
1.2 回収状況	1
2. 保健所長調査	2
2.1 保健所長としての勤務経験	2
2.2 B型肝炎の病態等に関する認識	4
2.3 B型肝炎ウイルスの感染経路等に関する認識	7
2.4 集団予防接種等における注射針・注射筒の交換等に関する保健所としての指導状況	9
2.4.1 注射針	9
2.4.2 注射筒	11
2.4.3 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルスの感染の症例把握	13
3. 医療従事者調査	15
3.1 医療従事者としての勤務経験	15
3.2 B型肝炎の病態等に関する認識	16
3.3 B型肝炎ウイルスの感染経路等に関する認識	22
3.4 集団予防接種等における注射針・注射筒の交換等の実施状況	26
3.4.1 注射針	26
3.4.2 注射筒	32
3.5 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルスの感染の症例把握	38

1. 調査の概要

1.1 調査方法

保健所長調査は全国保健所長会の名誉会員を、医療従事者調査は日本小児科医会の50歳以上の会員を、それぞれ対象として質問紙調査を行った。調査票の配布回収は郵送とした。

調査期間は平成24年12月1日～12月14日とし、ハガキによる督促を行った。

1.2 回収状況

保健所長調査の回収数は、12月25日時点で37件（回収率60.7%）であった。また、医療従事者調査の回収数は12月17日時点で1,150件（回収率34.1%）であった。

※今回は上記について集計を行った中間集計結果を報告する。

	発送数	回収数	回収率
保健所長	61件	37件 (12/25時点)	60.7%
医療従事者	3,369件	1,150件 (12/17時点)	34.1%

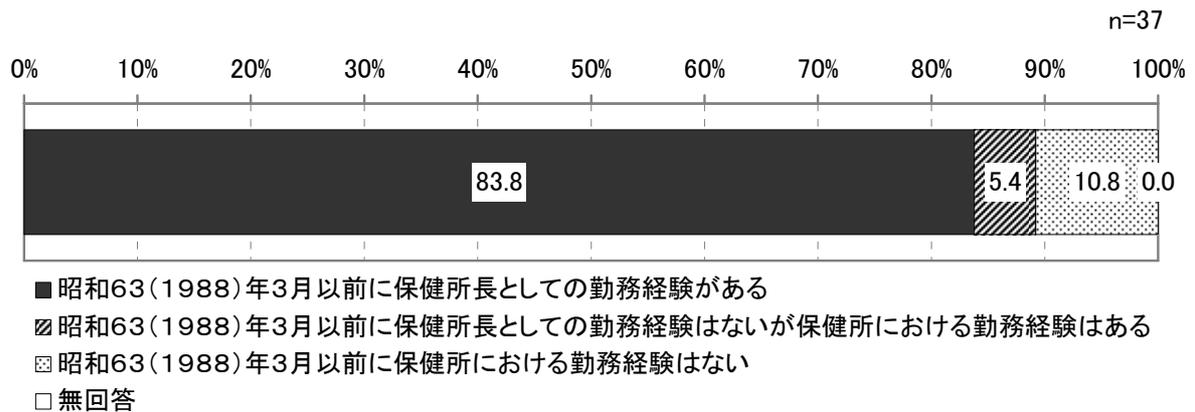
2. 保健所長調査

2.1 保健所長としての勤務経験

(1) 勤務経験の有無

昭和 63（1988）年 3 月以前の保健所長としての勤務経験の有無については、「昭和 63（1988）年 3 月以前に保健所長としての勤務経験がある」（83.8%）が最も多く、次いで「昭和 63（1988）年 3 月以前に保健所長としての勤務経験はない」（10.8%）、「昭和 63（1988）年 3 月以前に保健所長としての勤務経験はないが保健所における勤務経験はある」（5.4%）であった。

図 2-1 昭和63(1988)年3月以前の保健所長としての勤務経験の有無



(2) 在任期間等

保健所長としての在任期間については、「昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月」(87.1%)が最も多く、次いで「昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月」(29.0%)、「昭和34(1959)年4月～昭和44(1969)年3月」(25.8%)であった。

保健所長としての勤務経験はないが保健所における勤務経験がある場合の勤務期間については、「昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月」が100.0%であった。

図 2-2 保健所長としての在任期間

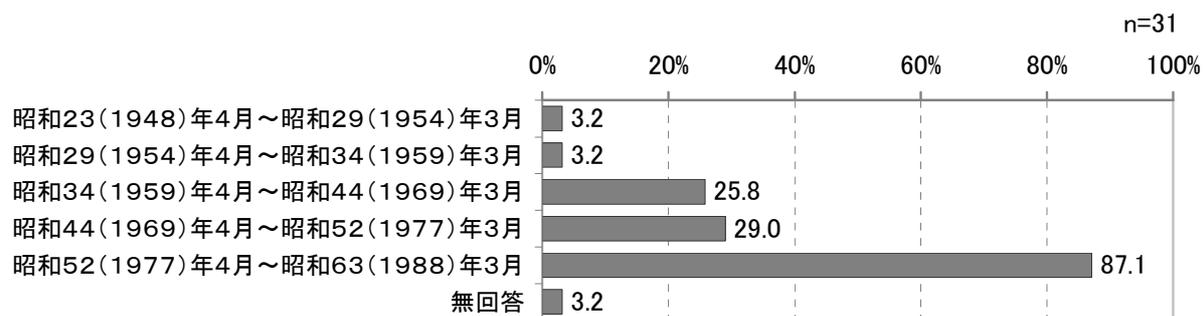
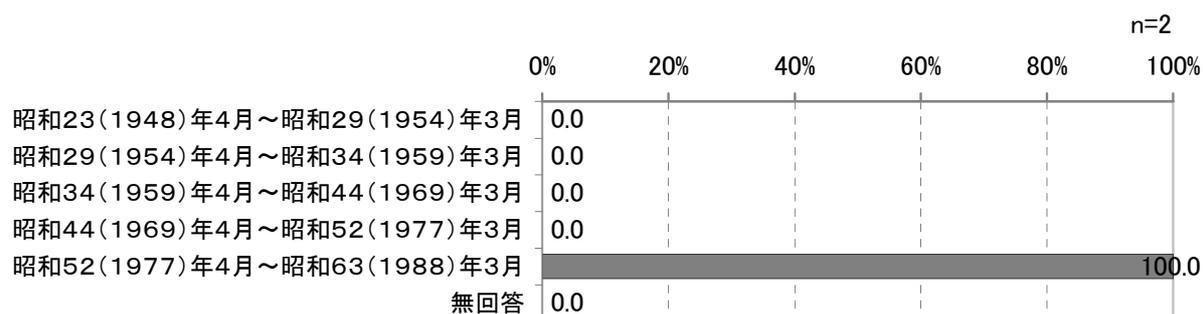


図 2-3 保健所における勤務期間



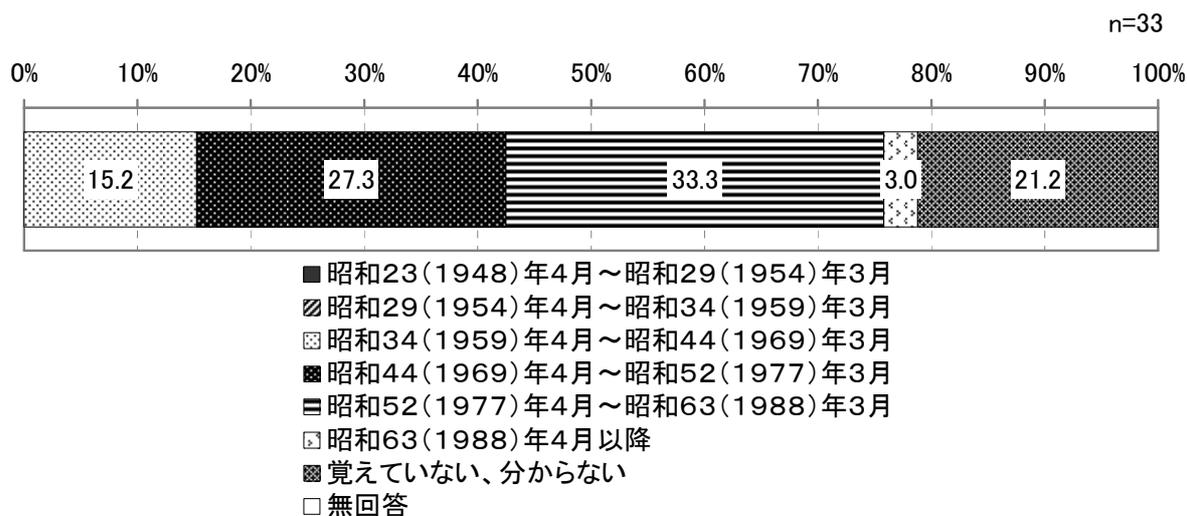
2.2 B型肝炎の病態等に関する認識

(1) 重症になる疾病であることについての認識

① 認識した時期

B型肝炎が重症になる疾病であることを認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（33.3%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（27.3%）であった。

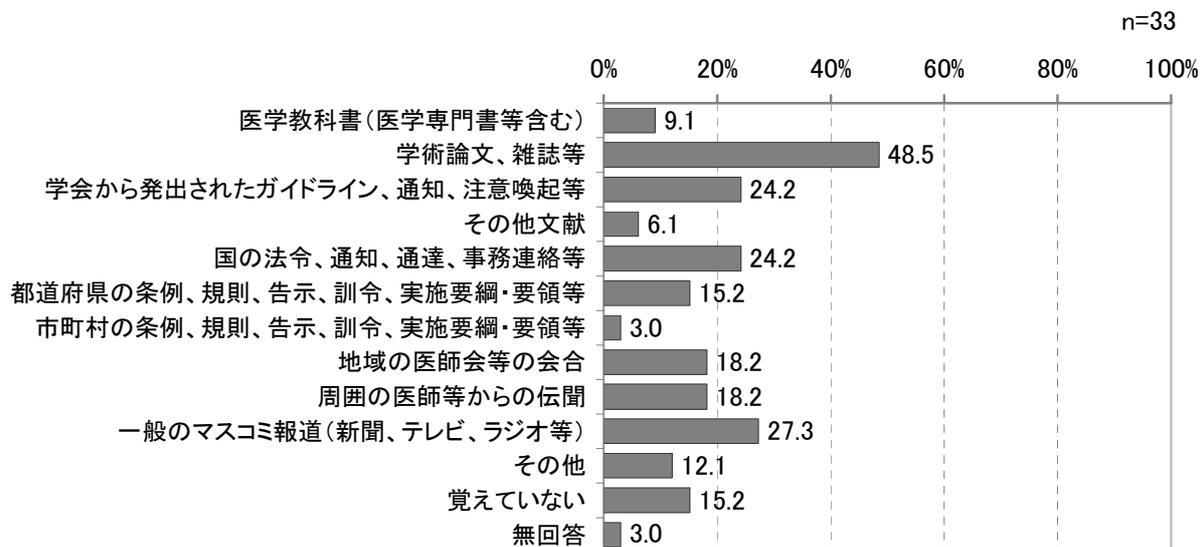
図 2-4 重症になる疾病であることを認識した時期



② 認識した情報源

B型肝炎が重症になる疾病であることを認識した情報源については、「学術論文、雑誌等」（48.5%）が最も多く、次いで「一般のマスコミ報道（新聞、テレビ、ラジオ等）」（27.3%）、「学会から発出されたガイドライン、通知、注意喚起等」と「国の法令、通知、通達、事務連絡等」（24.2%）であった。

図 2-5 重症になる疾病であることについて認識した情報源

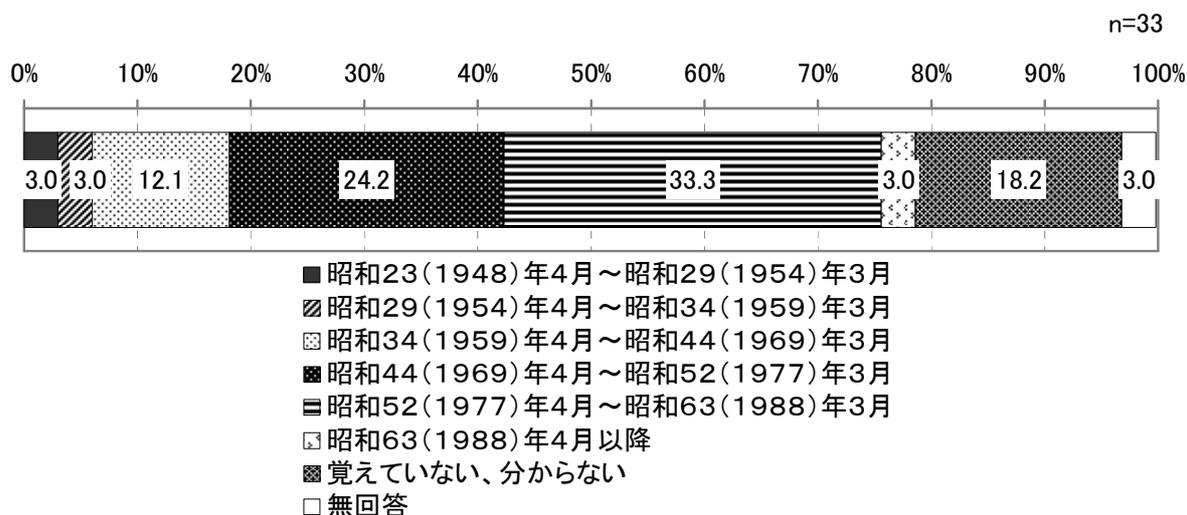


(2) キャリア化についての認識

① 認識した時期

キャリア化について認識した時期については、「昭和 52 (1977) 年 4 月～昭和 63 (1988) 年 3 月」(33.3%) が最も多く、次いで「昭和 44 (1969) 年 4 月～昭和 52 (1977) 年 3 月」(24.2%) であった。

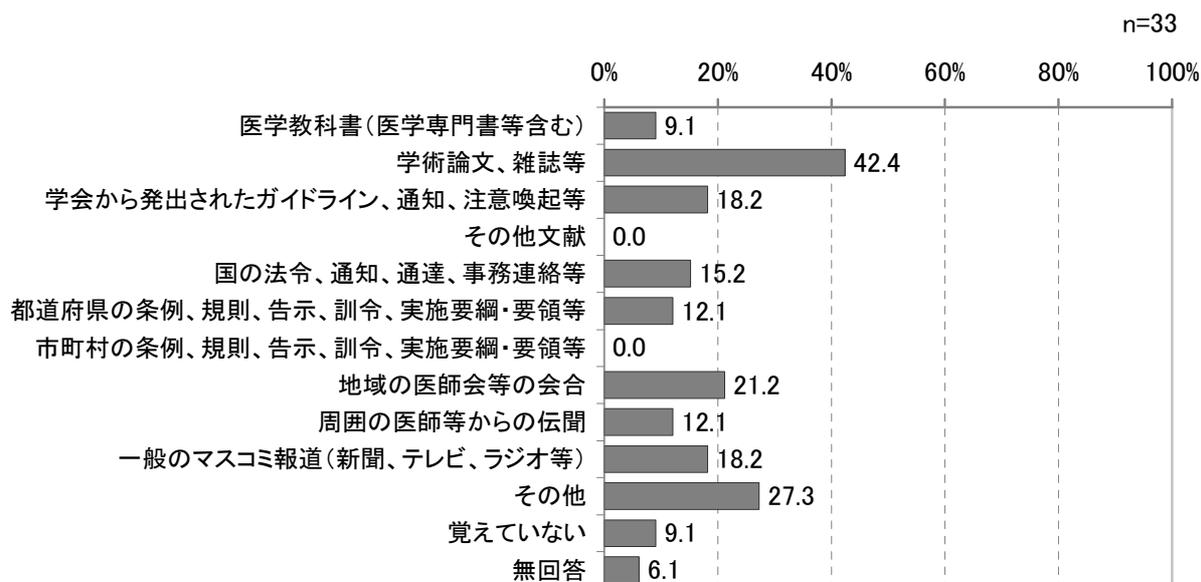
図 2-6 キャリア化について認識した時期



② 認識した情報源

キャリア化について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(42.4%) が最も多く、次いで「その他」(27.3%)、「地域の医師会等の会合」(21.2%) であった。

図 2-7 キャリア化について認識した情報源

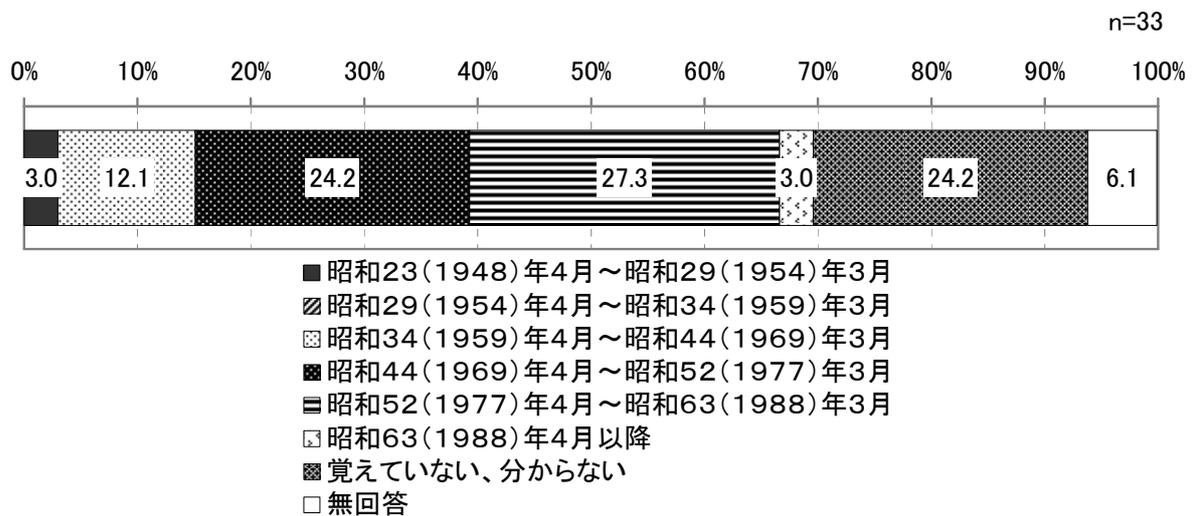


(3) 感染性についての認識

①認識した時期

感染性について認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（27.3%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」と「覚えていない、分からない」（24.2%）であった。

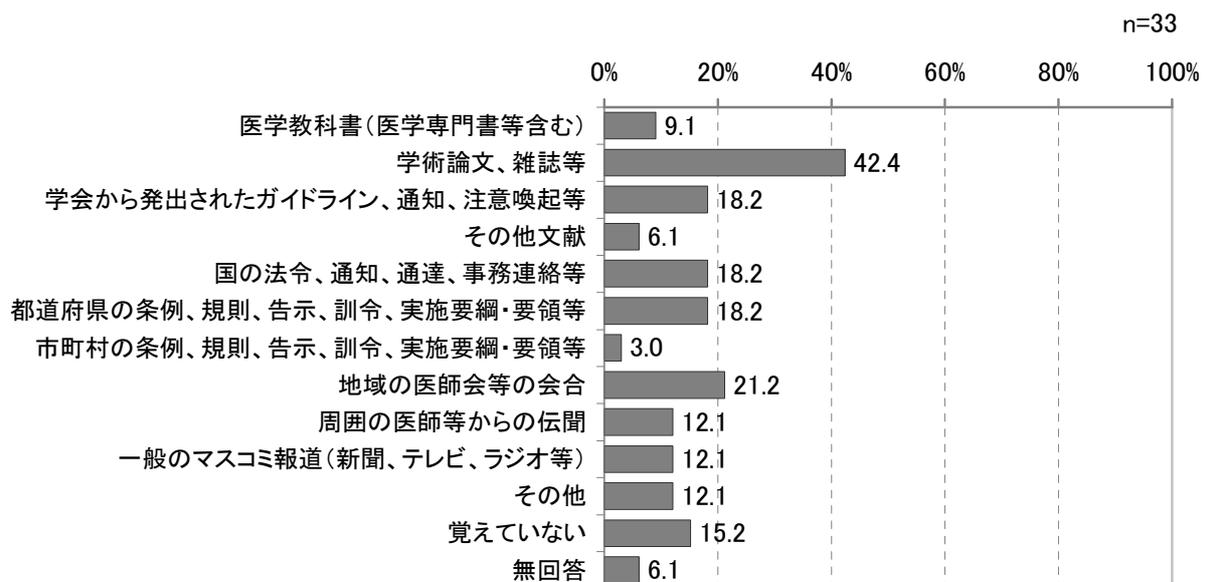
図 2-8 感染性について認識した時期



②認識した情報源

感染性について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」（42.4%）が最も多く、次いで「地域の医師会等の会合」（21.2%）であった。

図 2-9 感染性について認識した情報源



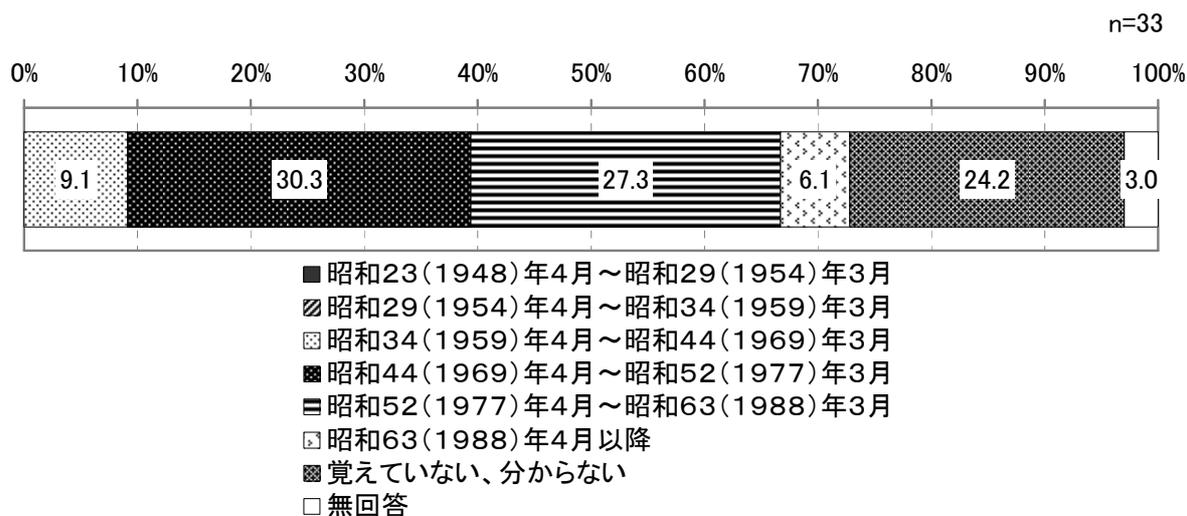
2.3 B型肝炎ウイルスの感染経路等に関する認識

(1) 注射針

① 認識した時期

注射針の連続使用による感染可能性について認識した時期については、「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（30.3%）が最も多く、次いで「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（27.3%）であった。

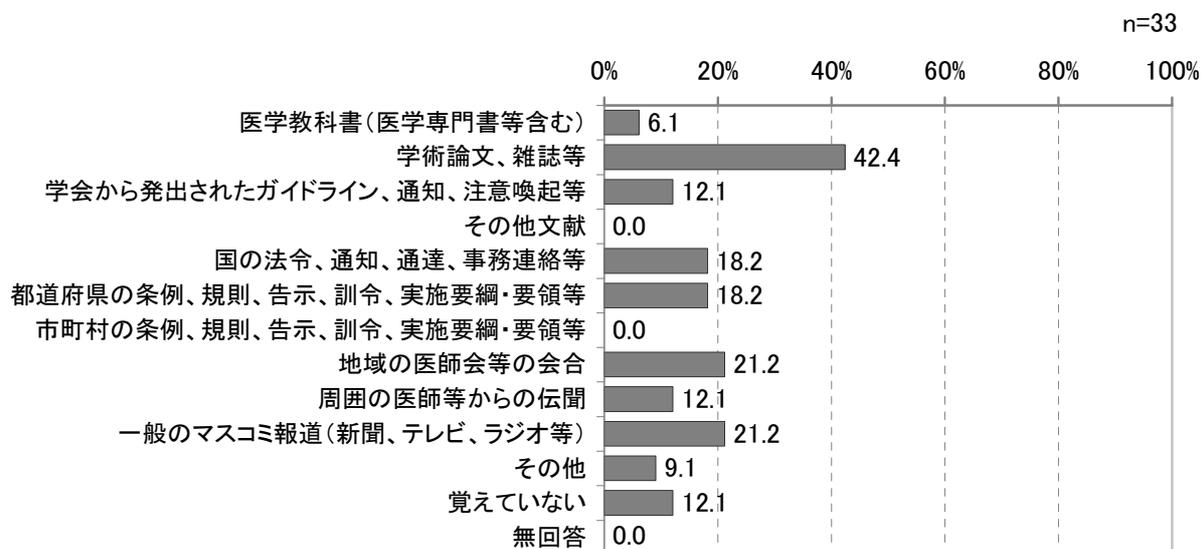
図 2-10 注射針の連続使用による感染可能性について認識した時期



② 認識した情報源

注射針の連続使用による感染可能性について認識した情報源については、「学術論文、雑誌等」（42.4%）が最も多く、次いで「地域の医師会等の会合」と「一般のマスコミ報道（新聞、テレビ、ラジオ等）」（21.2%）であった。

図 2-11 注射針の連続使用による感染可能性について認識した情報源

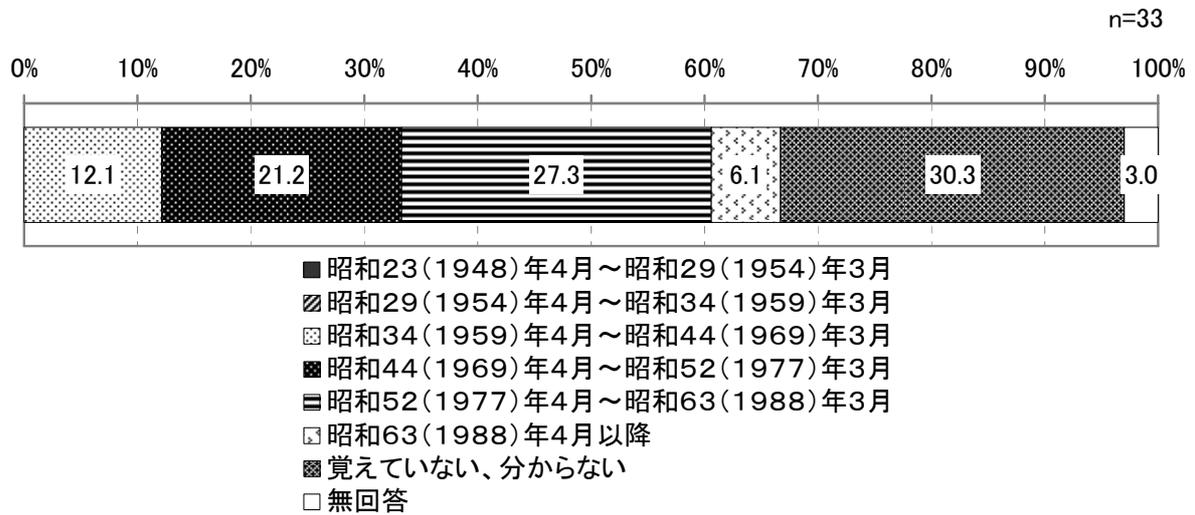


(2) 注射筒

①認識した時期

注射筒の連続使用による感染可能性について認識した時期については、「覚えていない、分からない」(30.3%)が最も多く、次いで「昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月」(27.3%)、「昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月」(21.2%)であった。

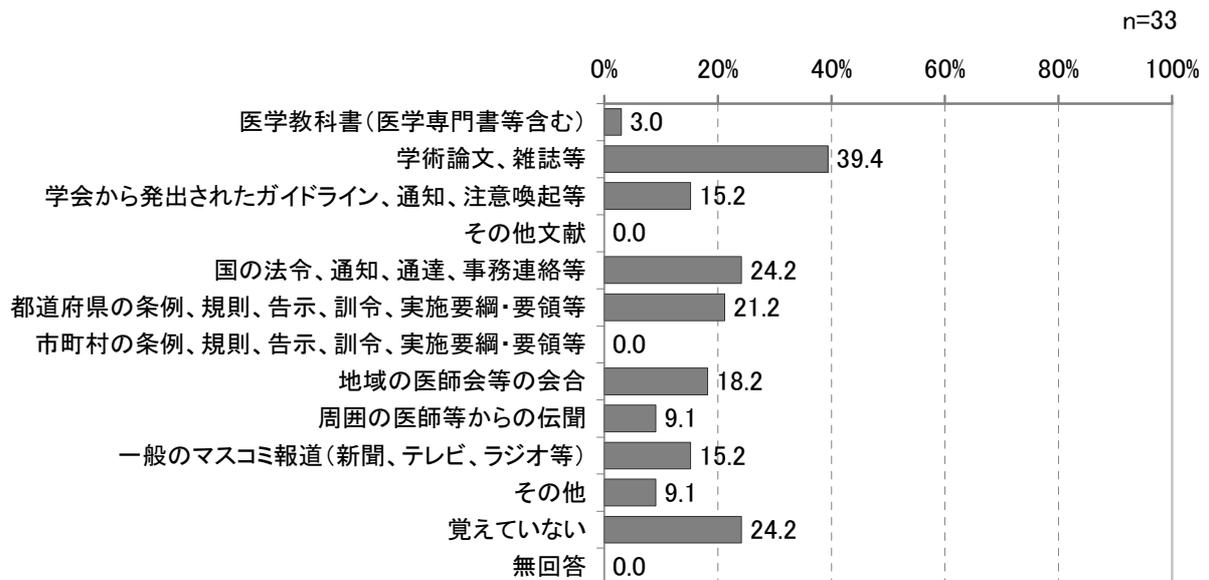
図 2-12 注射筒の連続使用による感染可能性について認識した時期



②認識した情報源

注射筒の連続使用による感染可能性について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(39.4%)が最も多く、次いで「国の法令、通知、通達、事務連絡等」と「覚えていない」(24.2%)であった。

図 2-13 注射筒の連続使用による感染可能性について認識した情報源



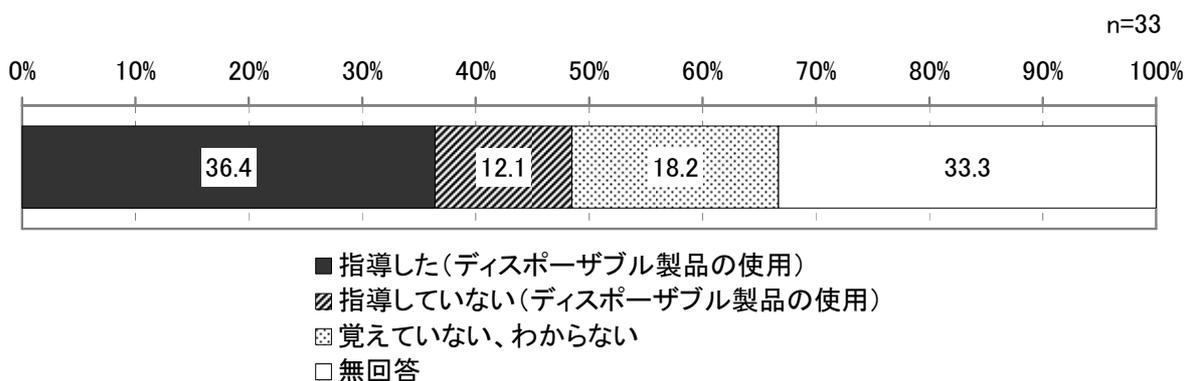
2.4 集団予防接種等における注射針・注射筒の交換等に関する保健所としての指導状況

2.4.1 注射針

- (1) 被接種者ごとの注射針の交換（ディスポーザブル製品の使用）の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計¹）

被接種者ごとの注射針の交換（ディスポーザブル製品の使用）の指導の有無については、「指導した」（36.4%）、「指導していない」（12.1%）であった²。

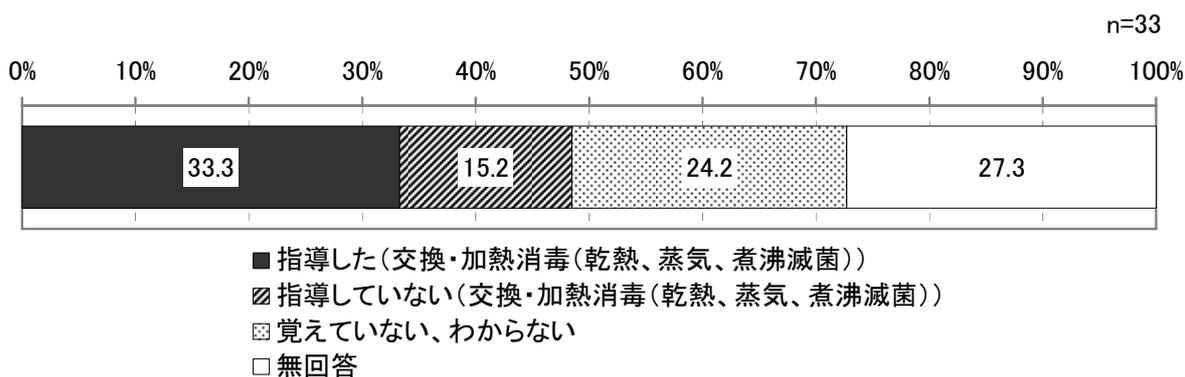
図 2-14 被接種者ごとの注射針の交換の指導の有無



- (2) 被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導の有無については、「指導した」（33.3%）、「指導していない」（15.2%）であった。³

図 2-15 被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒の指導の有無



¹ 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が小さい方の回答を集計している。以下同様。

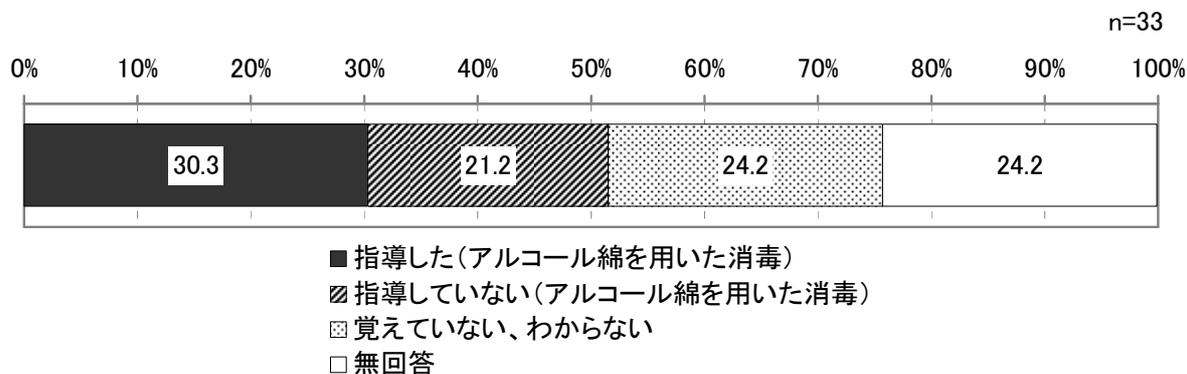
² 「(ディスポーザブル製品の使用について) 指導していない」との回答には、「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導」「アルコール綿を用いた消毒の指導」を行ったケースが含まれる。

³ 「(注射針の交換・加熱について) 指導していない」との回答には、「ディスポーザブル製品の使用についての指導」「アルコール綿を用いた消毒の指導」を行ったケースが含まれる。

(3) 被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無については、「指導した」(30.3%)、「指導していない」(21.2%)であった。⁴

図 2-16 被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無



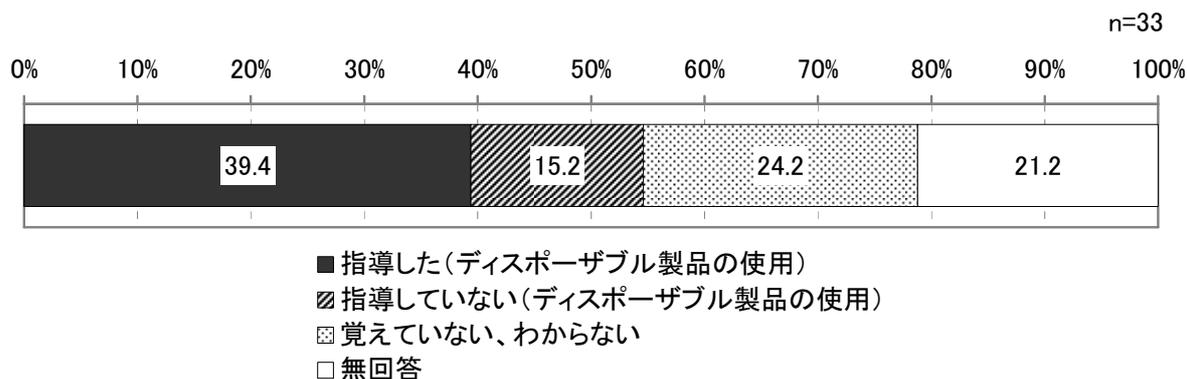
⁴ 「(アルコール綿を用いた消毒について) 指導していない」との回答には、「ディスポーザブル製品の使用についての指導」「注射針の交換・加熱の指導」を行ったケースが含まれる。

2.4.2 注射筒

(1) 被接種者ごとの注射筒の交換（ディスポーザブル製品の使用）の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射筒の交換（ディスポーザブル製品の使用）の指導の有無については、「指導した」（39.4%）、「指導していない」（15.2%）であった。⁵

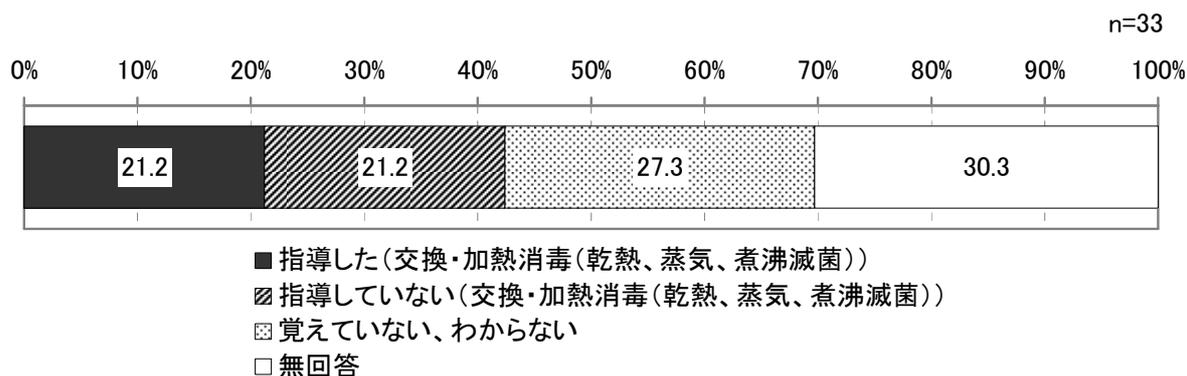
図 2-17 被接種者ごとの注射筒の交換の指導の有無



(2) 被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導の有無については、「指導した」（21.2%）、「指導していない」（21.2%）であった。⁶

図 2-18 被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒の指導の有無



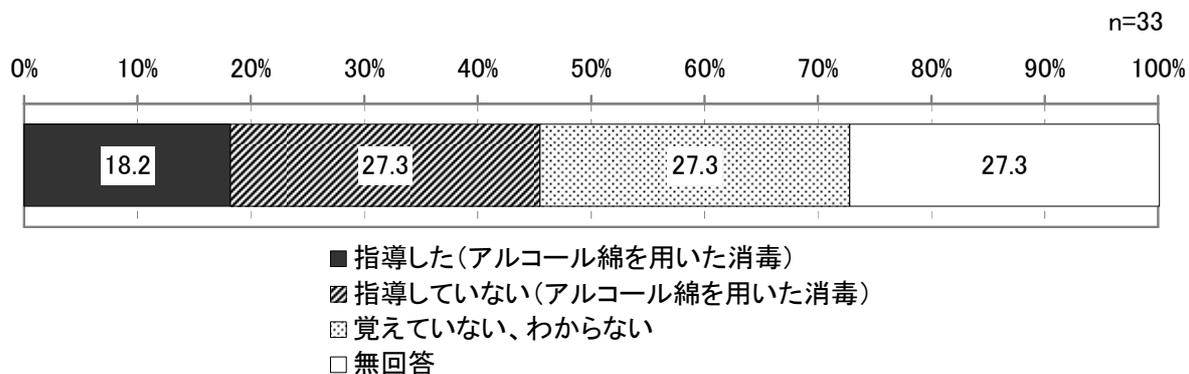
⁵ 「(ディスポーザブル製品の使用について) 指導していない」との回答には、「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の指導」「アルコール綿を用いた消毒の指導」を行ったケースが含まれる。

⁶ 「(注射筒の交換・加熱について) 指導していない」との回答には、「ディスポーザブル製品の使用についての指導」「アルコール綿を用いた消毒の指導」を行ったケースが含まれる。

(3) 被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無については、「指導した」(18.2%)、「指導していない」(27.3%)であった。⁷

図 2-19 被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒の指導の有無



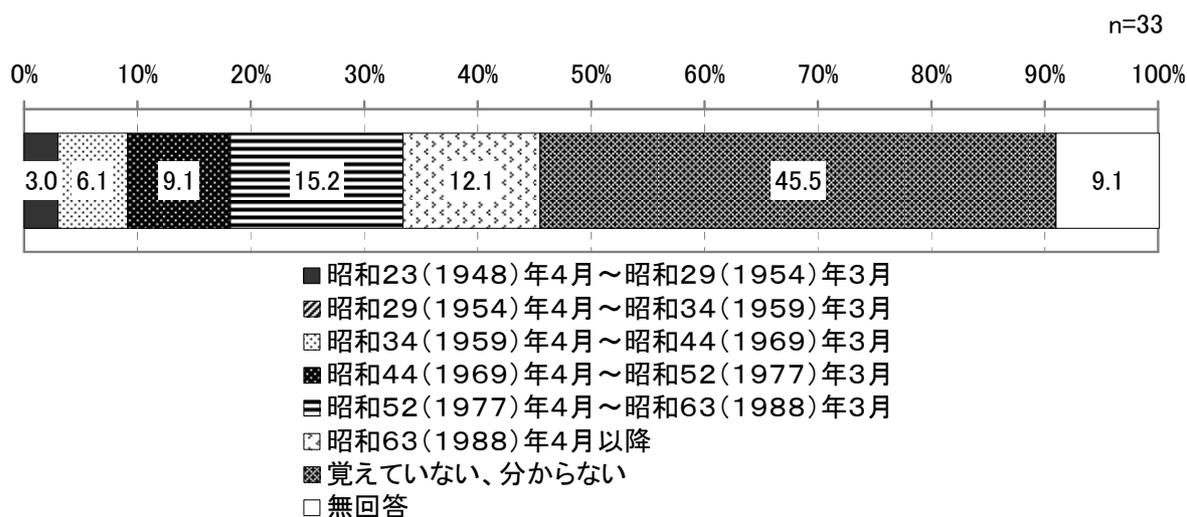
⁷ 「(アルコール綿を用いた消毒について) 指導していない」との回答には、「ディスプレイザブル製品の使用についての指導」「注射筒の交換・加熱の指導」を行ったケースが含まれる。

2.4.3 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルスの感染の症例把握

(1) 症例報告の把握時期

症例報告を把握した時期については、「覚えていない、分からない」(45.5%)が最も多く、次いで、「昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月」(15.2%)、「昭和63(1988)年4月以降」(12.1%)、「昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月」(9.1%)であった。

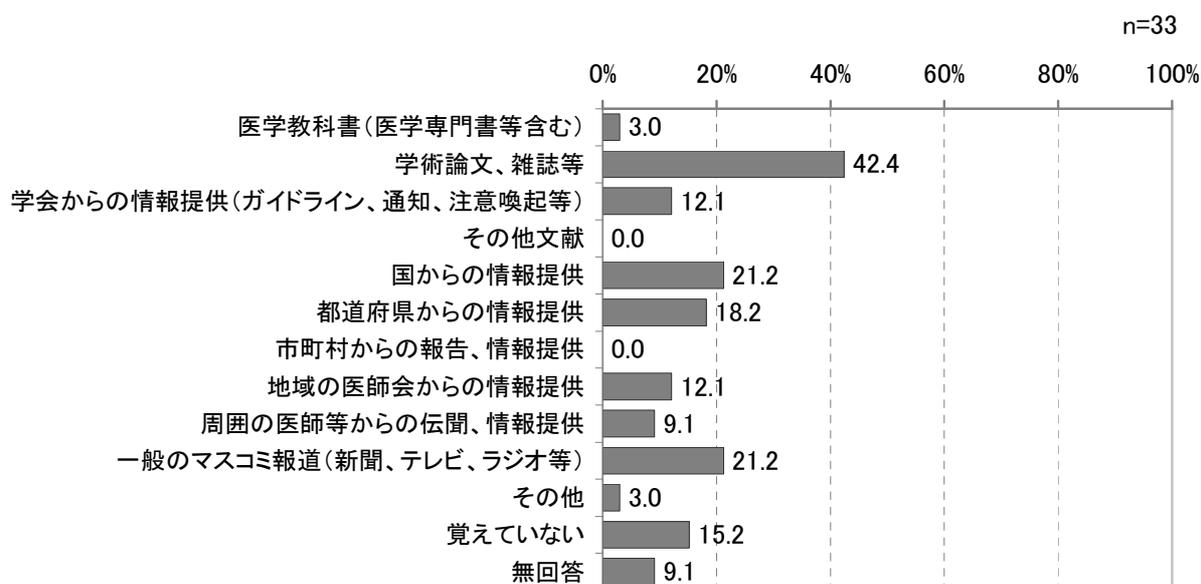
図 2-20 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルス感染の症例報告を把握した時期



(2) 症例報告を把握した情報源

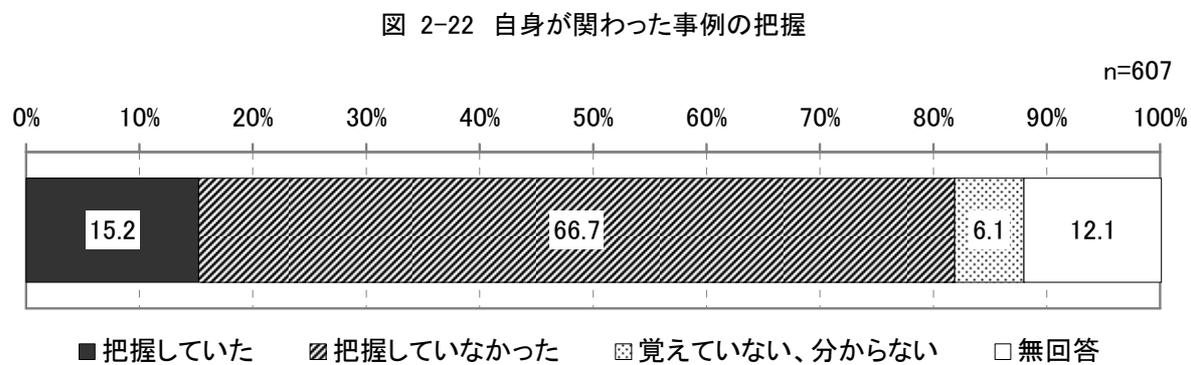
症例報告を把握した情報源については、「学术论文、雑誌等」(42.4%)が最も多く、次いで「国からの情報提供」(21.2%)、「一般のマスコミ報道(新聞、ラジオ、テレビ等)」(21.2%)であった。

図 2-21 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルス感染の症例報告を把握した情報源



(3) 自身が関わった事例

自身が関わった事例の把握については、「把握していた」が15.2%、「把握していなかった」が66.7%であった。



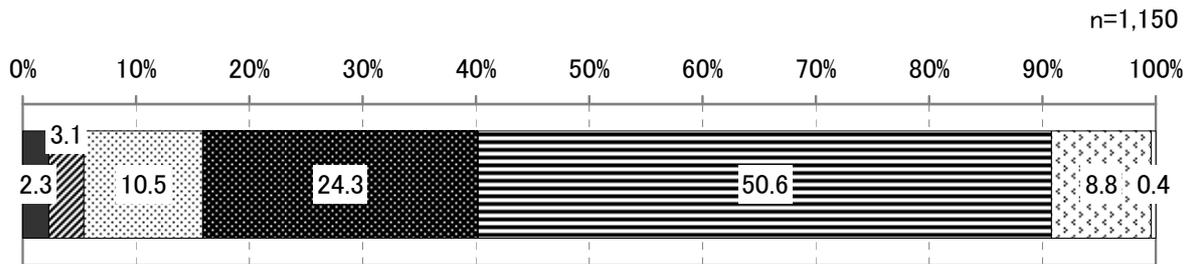
3. 医療従事者調査

3.1 医療従事者としての勤務経験

(1) 初めて医療・公衆衛生の現場での業務に従事した時期

初めて医療・公衆衛生の現場での業務に従事した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（50.6%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（24.3%）であった。

図 3-1 初めて医療・公衆衛生の現場での業務に従事した時期



- 昭和23(1948)年4月～昭和29(1954)年3月
- ▨ 昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月
- ▩ 昭和34(1959)年4月～昭和44(1969)年3月
- 昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月
- ▨ 昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月
- ▩ 昭和63(1988)年3月以前に従事したことはない
- 無回答

	サンプル数	昭和54年4月～昭和59年3月	昭和54年9月～昭和59年3月	昭和64年9月～昭和69年3月	昭和74年7月～昭和79年3月	昭和84年8月～昭和89年3月	昭和と昭和36年以前に従事した	無回答
合計	1150	26 2.3	36 3.1	121 10.5	279 24.3	582 50.6	101 8.8	5 0.4

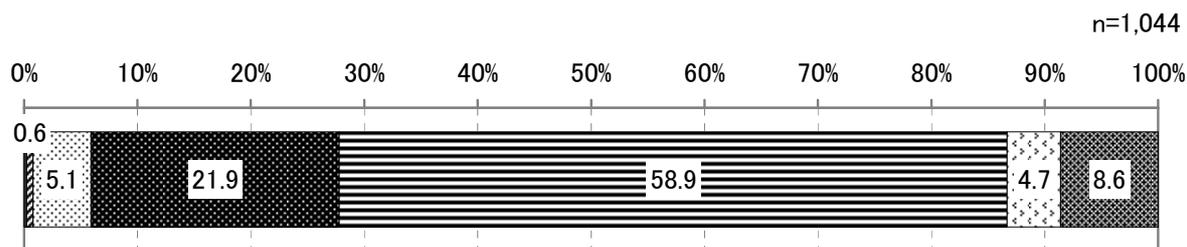
3.2 B型肝炎の病態等に関する認識

(1) 重症になる疾病であることについての認識

① 認識した時期

B型肝炎が重症になる疾病であることを認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（58.9%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（21.9%）であった。

図 3-2 重症になる疾病であることを認識した時期



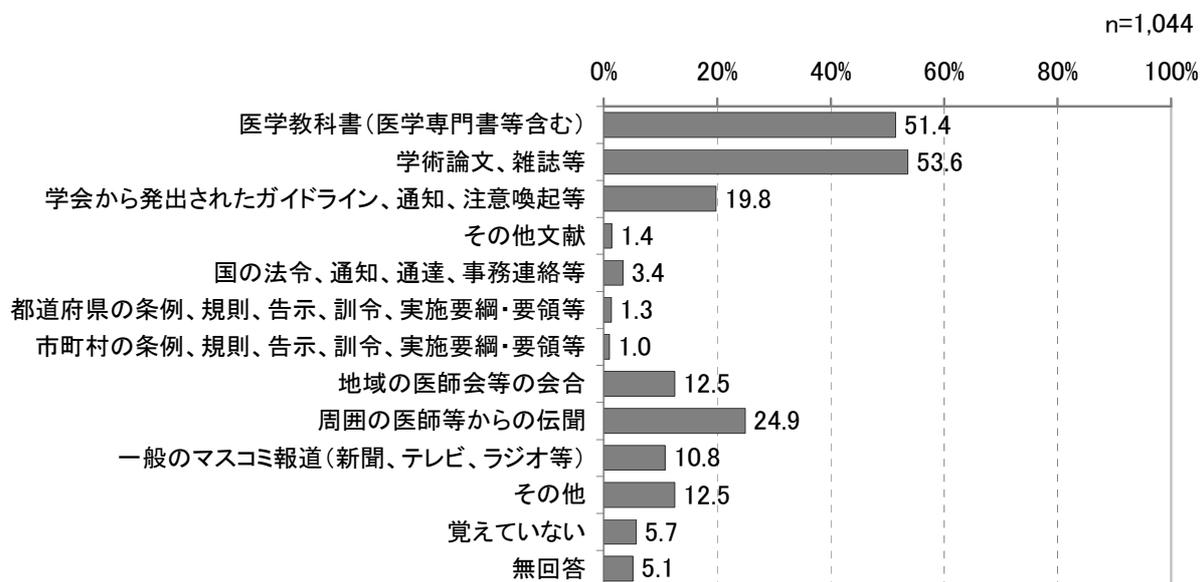
- 昭和 23 (1948) 年 4 月～昭和 29 (1954) 年 3 月
- ▨ 昭和 29 (1954) 年 4 月～昭和 34 (1959) 年 3 月
- ▩ 昭和 34 (1959) 年 4 月～昭和 44 (1969) 年 3 月
- ▧ 昭和 44 (1969) 年 4 月～昭和 52 (1977) 年 3 月
- ▦ 昭和 52 (1977) 年 4 月～昭和 63 (1988) 年 3 月
- ▤ 昭和 63 (1988) 年 4 月以降
- ▣ 覚えていない、分からない
- 無回答

	サンプル数	昭和 54 年 4 月 2 日～昭和 53 年 3 月 29 日	昭和 54 年 9 月 2 日～昭和 53 年 3 月 31 日	昭和 54 年 9 月 3 日～昭和 54 年 3 月 4 日	昭和 54 年 7 月 4 日～昭和 54 年 3 月 5 日	昭和 54 年 8 月 5 日～昭和 53 年 3 月 6 日	昭和 54 年 4 月 6 日以降	覚えていない、分からない	無回答
合計	1044	2 0.2	6 0.6	53 5.1	229 21.9	615 58.9	49 4.7	90 8.6	0 0.0

②認識した情報源

B型肝炎が重症になる疾病であることを認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(53.6%)が最も多く、次いで「医学教科書(医学専門書等含む)」(51.4%)、「周囲の医師等からの伝聞」(24.9%)であった。

図 3-3 重症になる疾病であることについて認識した情報源

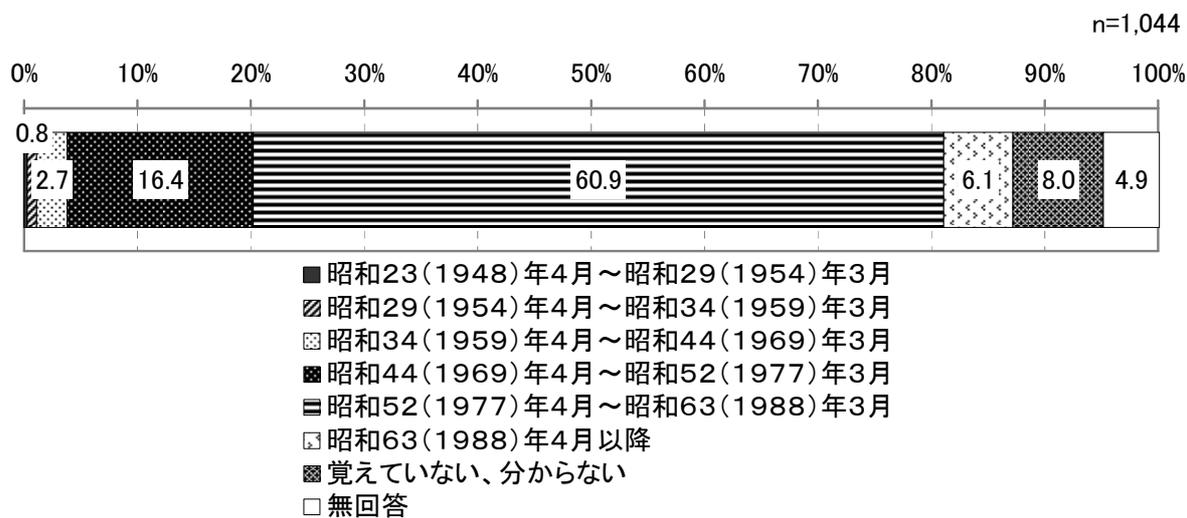


(2) キャリア化についての認識

①認識した時期

キャリア化について認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（60.9%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（16.4%）であった。

図 3-4 キャリア化について認識した時期

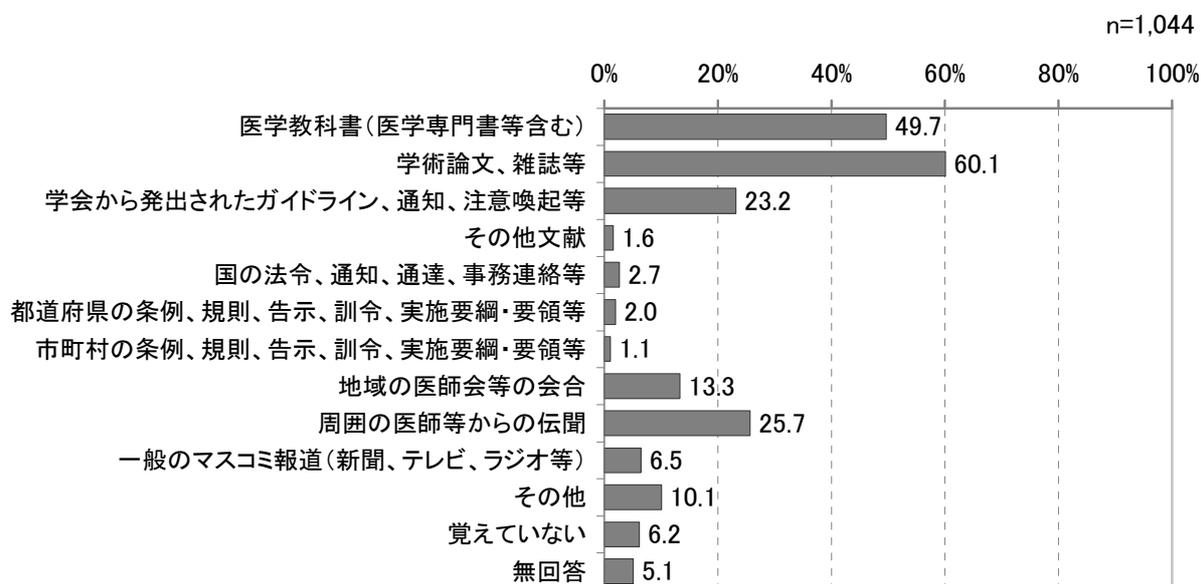


	サンプル数	昭和 54 年 4 月 3 日～昭和 59 年 3 月 1 日	昭和 54 年 9 月 2 日～昭和 59 年 3 月 1 日	昭和 56 年 4 月 3 日～昭和 61 年 3 月 1 日	昭和 57 年 4 月 3 日～昭和 62 年 3 月 1 日	昭和 58 年 4 月 3 日～昭和 63 年 3 月 1 日	昭和 64 年 4 月 3 日以降	覚えていない、分からない	無回答
合計	1044	3 0.3	8 0.8	28 2.7	171 16.4	636 60.9	64 6.1	83 8.0	51 4.9

②認識した情報源

キャリア化について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(60.1%)が最も多く、次いで「医学教科書(医学専門書等含む)」(49.7%)、「周囲の医師等からの伝聞」(25.7%)であった。

図 3-5 キャリア化について認識した情報源

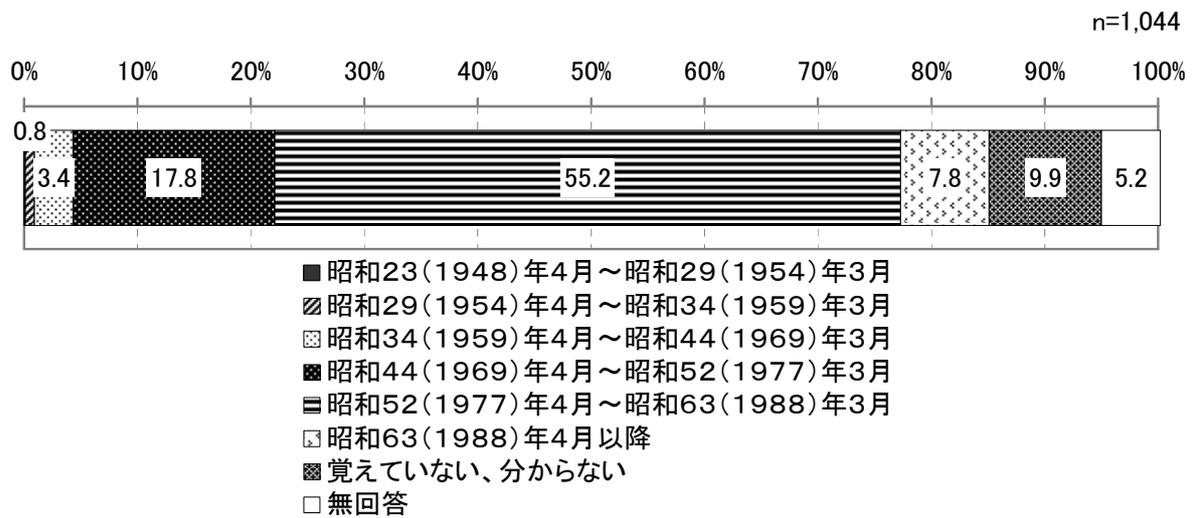


(3) 感染性についての認識

①認識した時期

感染性について認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（55.2%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（17.8%）であった。

図 3-6 感染性について認識した時期

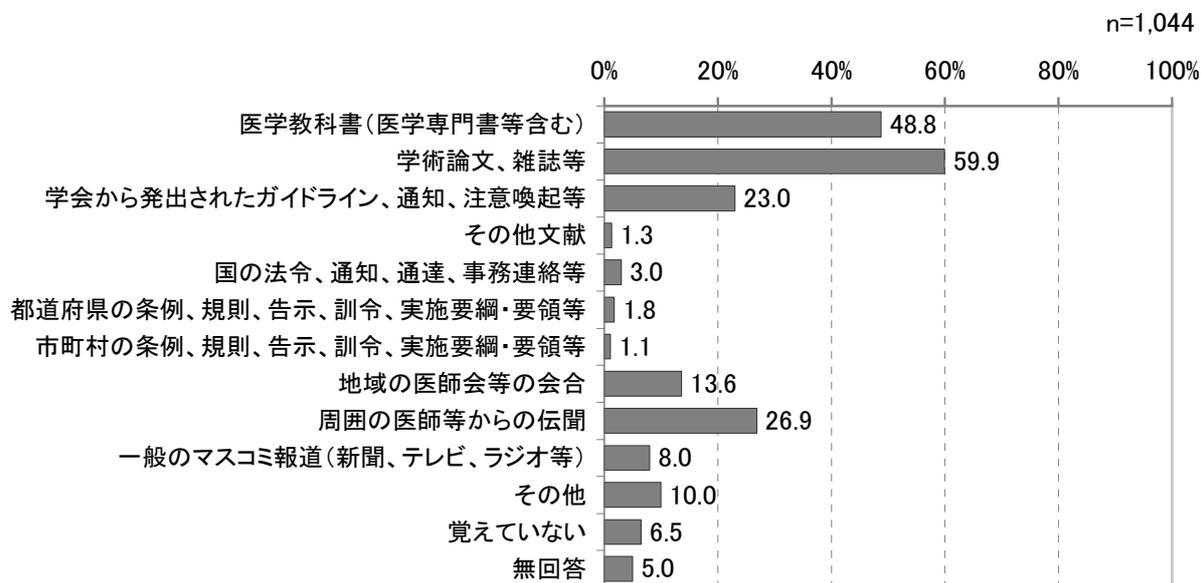


	サンプル数	昭和 54 年 4 月 3 日～昭和 54 年 9 月 1 日	昭和 54 年 9 月 2 日～昭和 54 年 3 月 31 日	昭和 56 年 4 月 3 日～昭和 56 年 9 月 1 日	昭和 57 年 4 月 3 日～昭和 57 年 9 月 1 日	昭和 58 年 4 月 3 日～昭和 58 年 9 月 1 日	昭和 59 年 4 月 3 日～昭和 59 年 9 月 1 日	昭和 60 年 4 月 3 日～昭和 60 年 9 月 1 日	覚えていない、分からない	無回答
合計	1044	1 0.1	8 0.8	35 3.4	186 17.8	576 55.2	81 7.8	103 9.9	54 5.2	

②認識した情報源

感染性について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(59.9%)が最も多く、次いで「医学教科書(医学専門書等含む)」(48.8%)、「周囲の医師等からの伝聞」(26.9%)であった。

図 3-7 感染性について認識した情報源



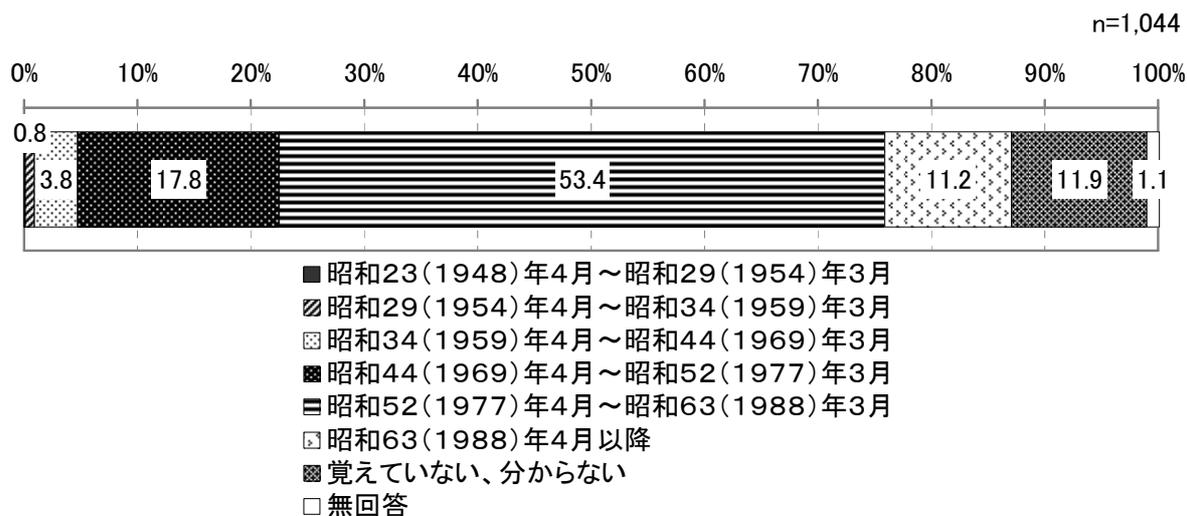
3.3 B型肝炎ウイルスの感染経路等に関する認識

(1) 注射針

① 認識した時期

注射針の連続使用による感染可能性について認識した時期については、「昭和 52（1977）年 4 月～昭和 63（1988）年 3 月」（53.4%）が最も多く、次いで「昭和 44（1969）年 4 月～昭和 52（1977）年 3 月」（17.8%）であった。

図 3-8 注射針の連続使用による感染可能性について認識した時期

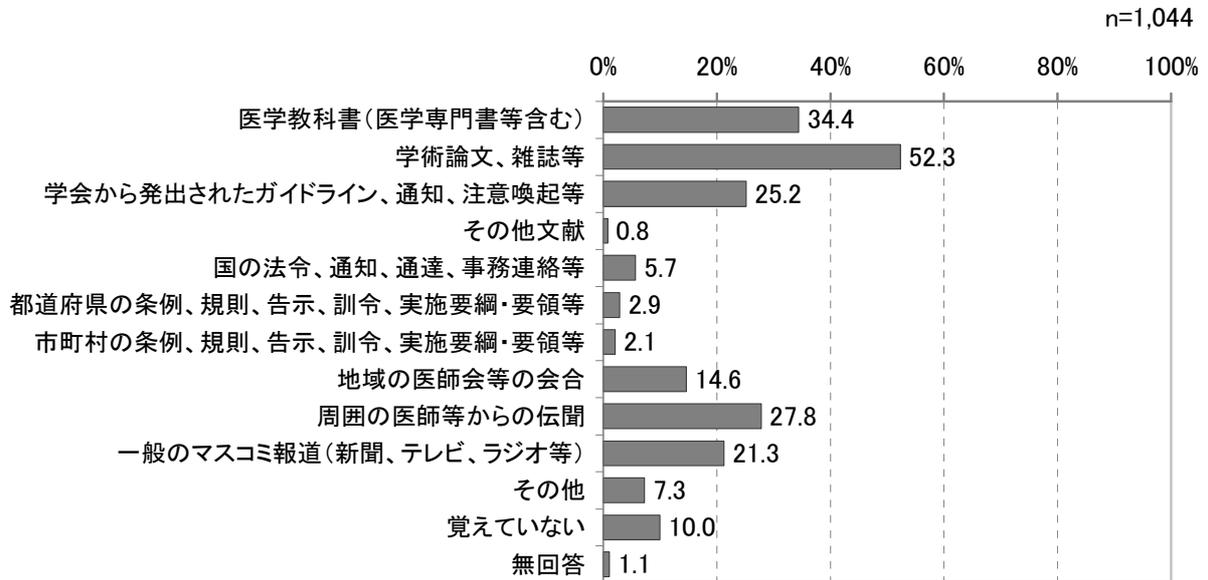


	サンプル数	昭和54年4月～昭和53年3月	昭和54年9月～昭和53年3月	昭和64年9月～昭和53年4月	昭和74年7月～昭和53年4月	昭和84年8月～昭和53年2月	昭和44年6月以降	覚えていない、分からない	無回答
合計	1044	1 0.1	8 0.8	40 3.8	186 17.8	557 53.4	117 11.2	124 11.9	11 1.1

②認識した情報源

注射針の連続使用による感染可能性について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(52.3%)が最も多く、次いで「医学教科書(医学専門書等含む)」(34.4%)、「周囲の医師等からの伝聞」(27.8%)であった。

図 3-9 注射針の連続使用による感染可能性について認識した情報源

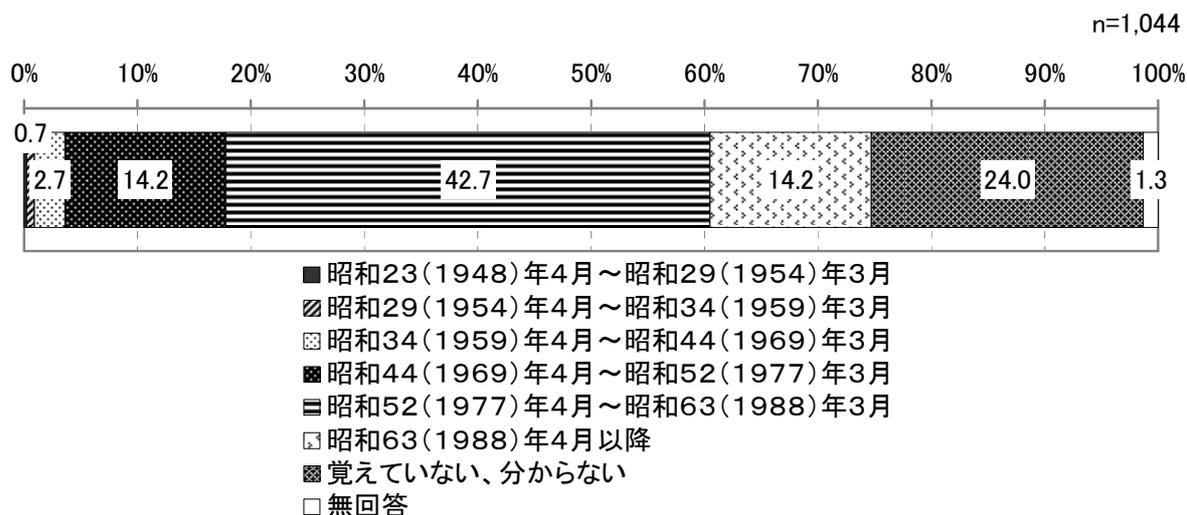


(2) 注射筒

①認識した時期

注射筒の連続使用による感染可能性について認識した時期については、「昭和 52 (1977) 年 4 月～昭和 63 (1988) 年 3 月」(42.7%) が最も多く、次いで「覚えていない、分からない」(24.0%) であった。

図 3-10 注射筒の連続使用による感染可能性について認識した時期

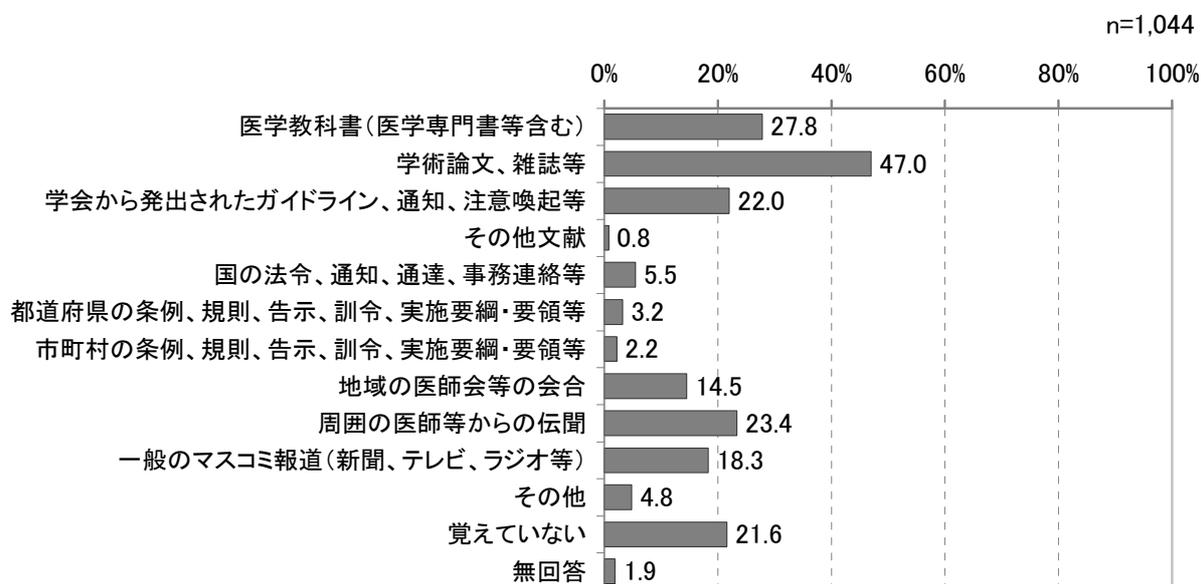


	サ ン プ ル 数	9 年 昭 5 4 和 4 月 2 ～ 5 3 年 昭 (3 和 1 月 2 9 9 4 ～ 8 1)	9 年 昭 5 4 和 9 月 2 ～ 5 9 年 昭 (3 和 1 月 3 9 4 5 ～ 4 1)	9 年 昭 6 4 和 9 月 3 ～ 5 4 年 昭 (3 和 1 月 4 9 4 5 ～ 9 1)	9 年 昭 7 4 和 7 月 4 ～ 5 4 年 昭 (3 和 1 月 5 9 2 6 ～ 9 1)	9 年 昭 8 4 和 8 月 5 ～ 5 2 年 昭 (3 和 1 月 6 9 3 7 ～ 7 1)	年 昭 4 和 4 月 6 以 3 降 (1 9 8 8)	な 覚 え て い な い 、 分 か ら	無 回 答
合 計	1044	2 0.2	7 0.7	28 2.7	148 14.2	446 42.7	148 14.2	251 24.0	14 1.3

②認識した情報源

注射筒の連続使用による感染可能性について認識した情報源については、「学术论文、雑誌等」(47.0%)が最も多く、次いで「医学教科書(医学専門書等含む)」(27.8%)、「周囲の医師等からの伝聞」(23.4%)であった。

図 3-11 注射筒の連続使用による感染可能性について認識した情報源



3.4 集団予防接種等における注射針・注射筒の交換等の実施状況

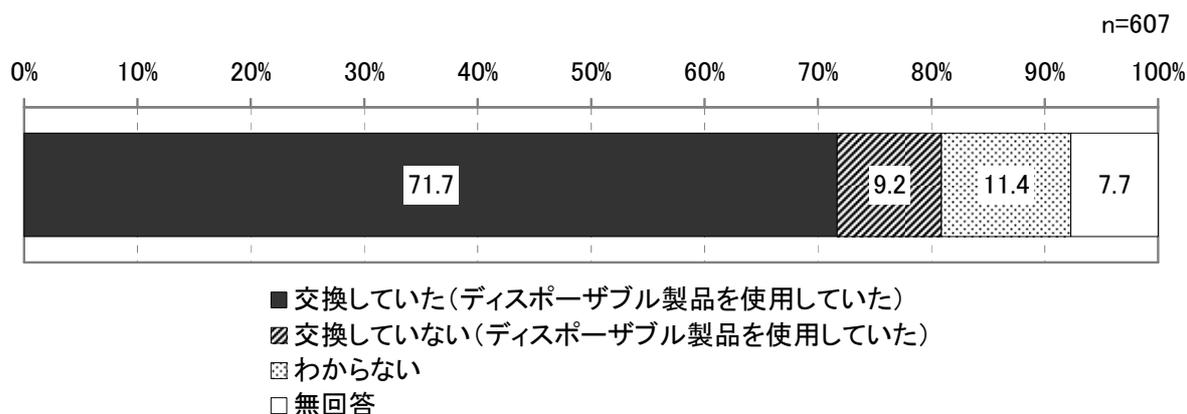
3.4.1 注射針

(1) 被接種者ごとの注射針の交換（ディスポーザブル製品の使用）

①ディスポーザブル製品の使用の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計⁸）

被接種者ごとの注射針の交換（ディスポーザブル製品の使用）については、「交換していた（ディスポーザブル製品を使用していた）」（71.7%）、「交換していない（ディスポーザブル製品を使用していない）」（9.2%）であった⁹。

図 3-12 被接種者ごとの注射針の交換（ディスポーザブル製品の使用）の有無



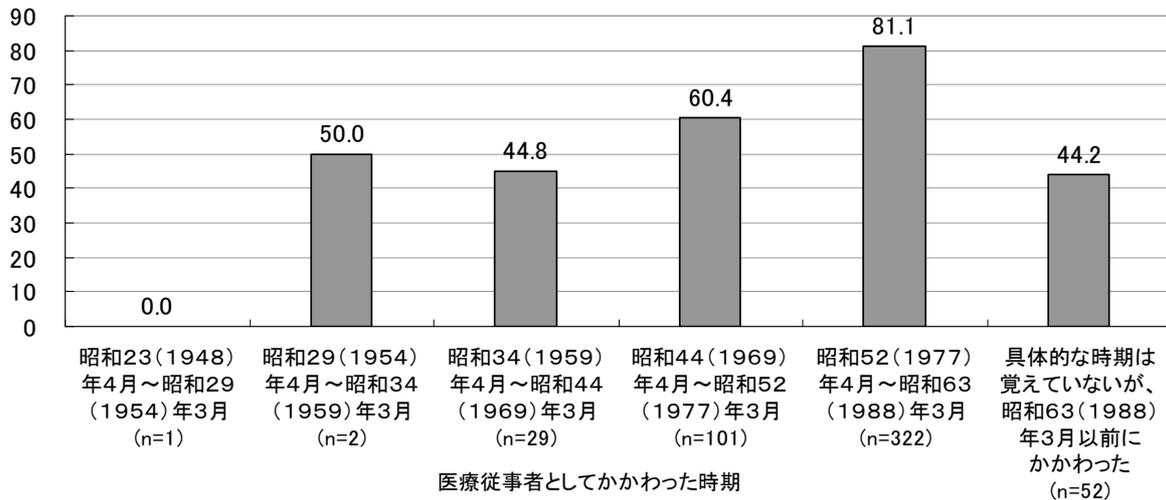
⁸ 予防接種の種類ごとに状況が異なることを想定し、複数回答を可としたことから、複数回答の場合には回答番号が小さい方の回答を集計している。以下同様。

⁹ 「交換していない（ディスポーザブル製品を使用していない）」との回答には、「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施」「アルコール綿を用いた消毒の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期のディスポーザブル製品の使用状況

集団予防接種にかかわった時期別のディスポーザブル製品の使用状況について、サンプル数が多い昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月、昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月を見ると、昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月(60.4%)に比べて、昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月(81.8%)が使用している割合が高い。

図 3-13 医療従事者としてかかわった時期とディスポーザブル製品の使用状況(注射針)



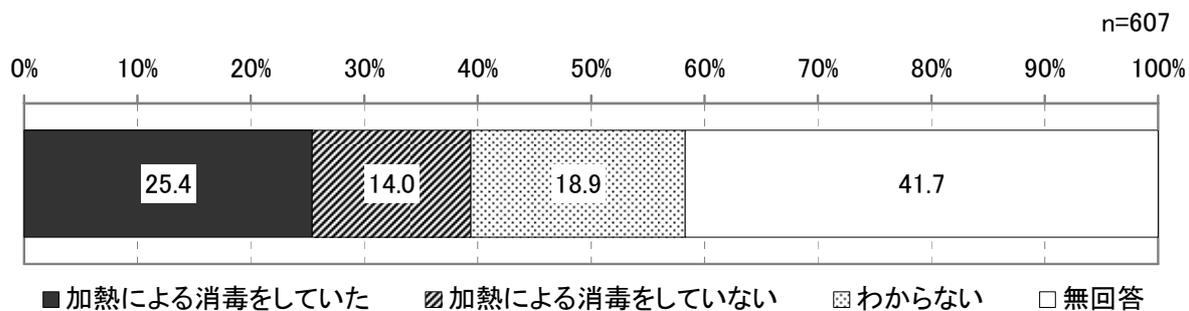
※ 図中、「かかわった時期」のnは、「交換していた(ディスポーザブル製品を使用していた)」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、nの合計は「交換していた(ディスポーザブル製品を使用していた)」と回答した者の数より多くなる。昭和23(1948)年4月～昭和29(1954)年3月、昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月、昭和34(1959)年4月～昭和44(1969)年3月は、サンプル数(当該期間に集団予防接種に従事した者の数)が少ないことに留意。

(2) 被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）

①被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒の実施の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施の有無については、「加熱による消毒をしていた」（25.4%）、「加熱による消毒をしていない」（14.0%）であった。¹⁰

図 3-14 被接種者ごとの注射針の交換・加熱消毒実施の有無

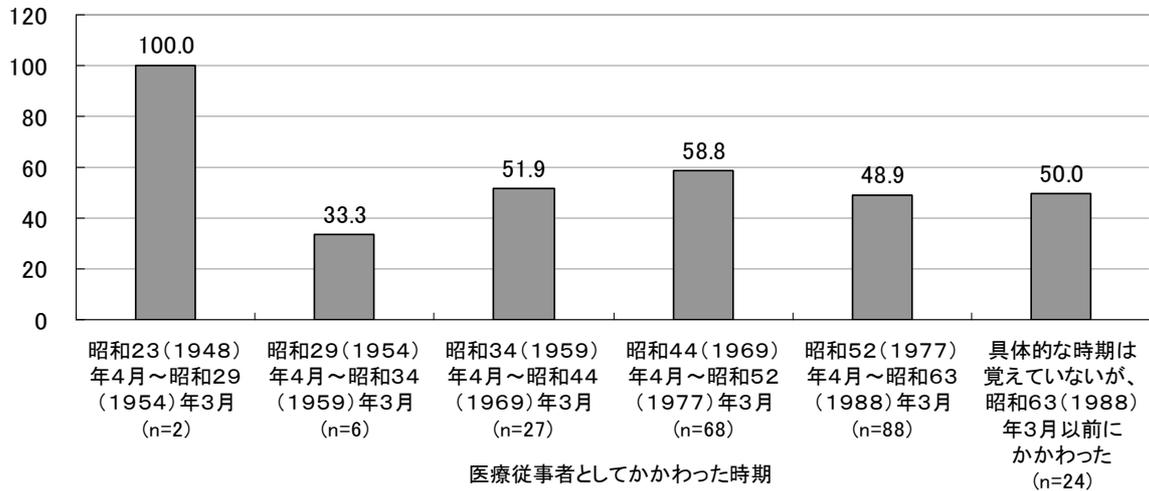


¹⁰「加熱による消毒をしていない」との回答には、「ディスポーザブル製品を使用」「アルコール綿を用いた消毒の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期の注射針の交換・加熱消毒実施の状況

集団予防接種にかかわった時期別の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施状況について、サンプル数が多い昭和44（1969）年4月～昭和52（1977）年3月、昭和52（1977）年4月～昭和63（1988）年3月を見ると、いずれの時期も一定程度実施されていた。

図 3-15 医療従事者としてかかわった時期と注射針の交換・加熱消毒の実施状況



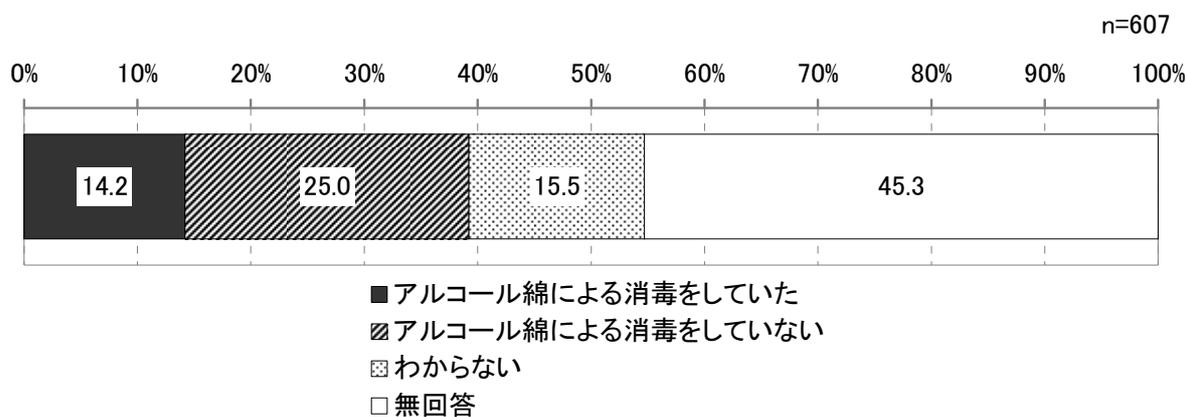
※ 図中「かかわった時期」のnは、「加熱による消毒をしていた」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、nの合計は「加熱による消毒をしていた」と回答した者の数より多くなる。昭和23(1948)年4月～昭和29(1954)年3月、昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月、昭和34(1959)年4月～昭和44(1969)年3月は、サンプル数（当該期間に集団予防接種に従事した者の数）が少ないことに留意。

(3) 被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒

①アルコール綿を用いた消毒の実施の有無(小さい番号の選択肢を優先した集計)

被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒の実施の有無については、「アルコール綿による消毒をしていた」(14.2%)、「アルコール綿による消毒をしていない」(15.5%)であった。¹¹

図 3-16 被接種者ごとの注射針のアルコール綿を用いた消毒実施の有無

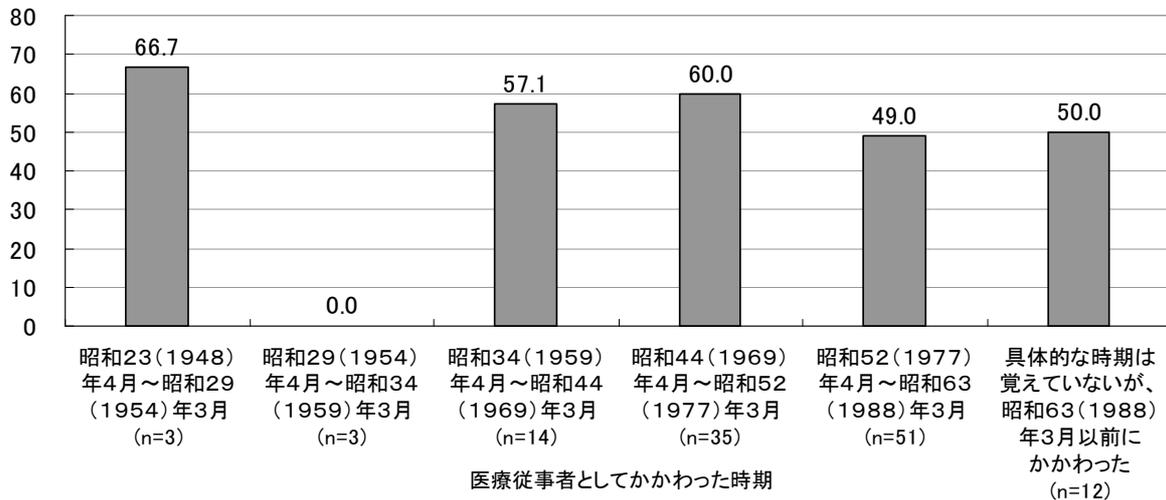


¹¹ 「アルコール綿による消毒をしていない」との回答には、「デイスポーザブル製品の使用」「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期のアルコール綿を用いた消毒の実施状況

集団予防接種にかかわった時期別のアルコール綿を用いた消毒の実施状況について見ると、サンプル数の差に留意する必要があるものの、昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月を除いて、いずれの期間においてもアルコール綿を用いた消毒が実施されている。

図 3-17 医療従事者としてかかわった時期とアルコール綿を用いた消毒の実施状況



※ 図中「かかわった時期」の n は、「アルコール綿による消毒をしていた」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、n の合計は「アルコール綿による消毒をしていた」と回答した者の数より多くなる。

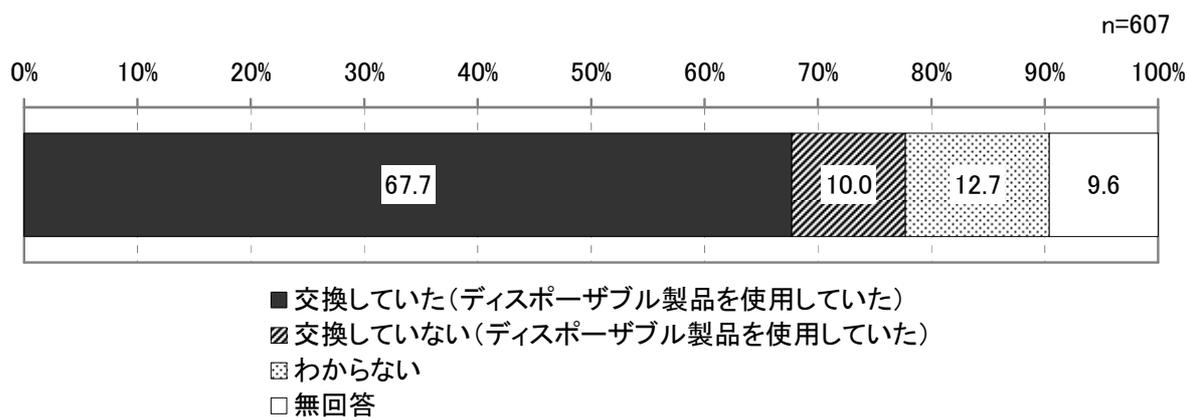
3.4.2 注射筒

(1) 被接種者ごとの注射筒の交換（ディスポーザブル製品の使用）

①ディスポーザブル製品の使用の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射筒の交換（ディスポーザブル製品の使用）については、「交換していた」（67.7%）、「交換していない」（10.0%）であった¹²。

図 3-18 被接種者ごとの注射筒の交換（ディスポーザブル製品の使用）の有無

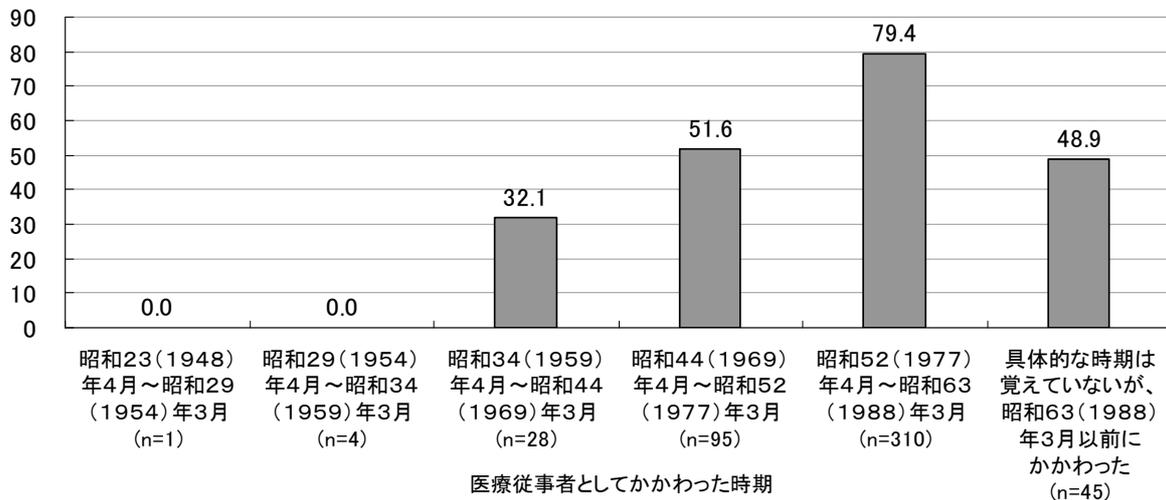


¹² 「交換していない（ディスポーザブル製品を使用していない）」との回答には、「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施」「アルコール綿を用いた消毒の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期のディスポーザブル製品の使用状況

集団予防接種にかかわった時期別のディスポーザブル製品の使用状況について、サンプル数が多い昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月、昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月を見ると、昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月(51.6%)に比べて、昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月(79.4%)が使用している割合が高い。

図 3-19 医療従事者としてかかわった時期とディスポーザブル製品を使用していた時期(注射筒)



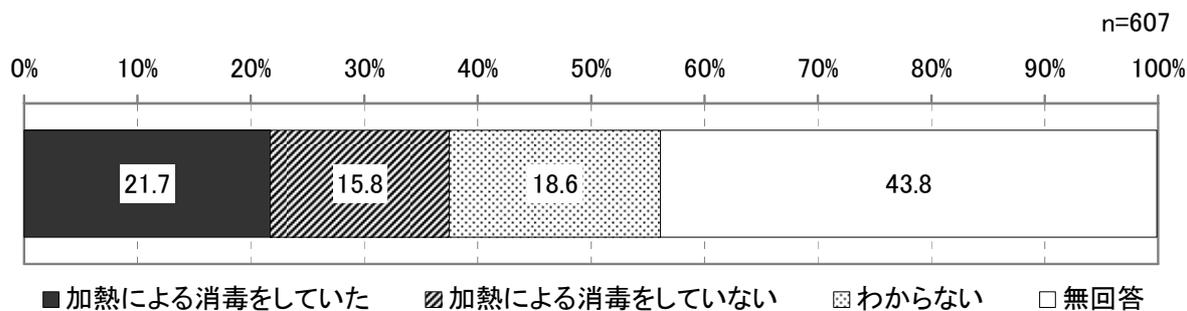
※ 図中「かかわった時期」のnは、「交換していた(ディスポーザブル製品を使用していた)」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、nの合計は「交換していた(ディスポーザブル製品を使用していた)」と回答した者の数より多くなる。昭和23(1948)年4月～昭和29(1954)年3月、昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月、昭和34(1959)年4月～昭和44(1969)年3月は、サンプル数(当該期間に集団予防接種に従事した者の数)が少ないことに留意。

(2) 被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）

①注射筒の交換・加熱消毒の実施の有無（小さい番号の選択肢を優先した集計）

被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施の有無については、「加熱による消毒をしていた」（21.7%）、「加熱による消毒をしていない」（15.8%）であった。¹³

図 3-20 被接種者ごとの注射筒の交換・加熱消毒実施の有無

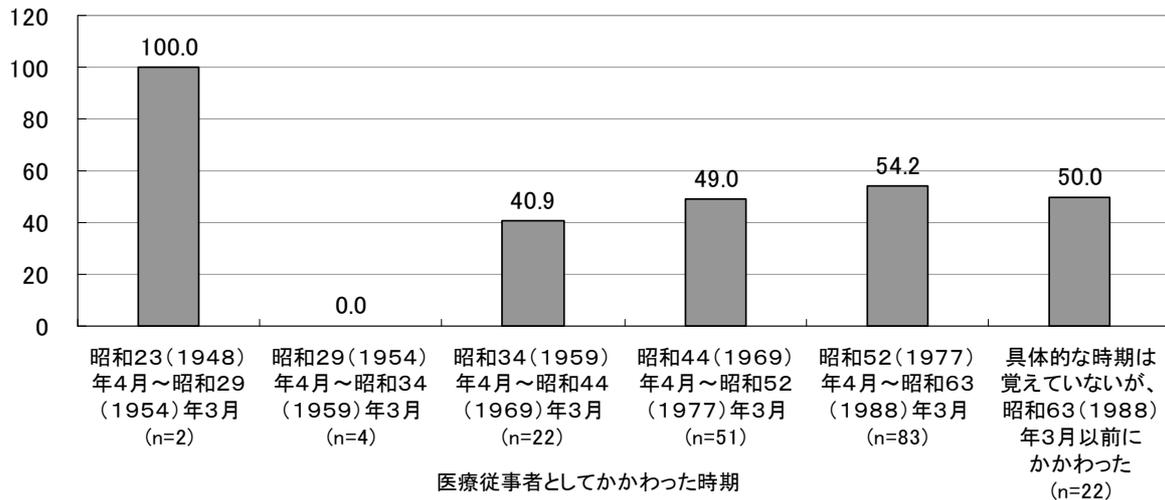


¹³ 「加熱による消毒をしていない」との回答には、「ディスポーザブル製品を使用」「アルコール綿を用いた消毒の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期の注射筒の交換・加熱消毒の実施状況

集団予防接種にかかわった時期別の交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施状況について、サンプル数の多い昭和44（1969）年4月～昭和52（1977）年3月、昭和52（1977）年4月～昭和63（1988）年3月を見ると、いずれの時期も一定程度実施されている。

図 3-21 医療従事者としてかかわった時期と注射筒の交換・加熱消毒を実施していた時期



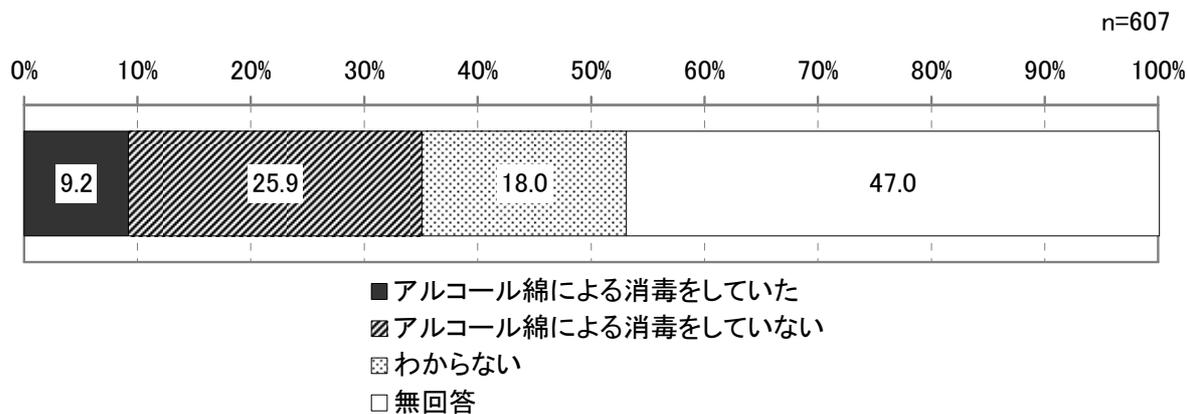
※ 図中「かかわった時期」のnは、「加熱による消毒をしていた」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、nの合計は「加熱による消毒をしていた」と回答した者の数より多くなる。昭和23（1948）年4月～昭和29（1954）年3月、昭和29（1954）年4月～昭和34（1959）年3月、昭和34（1959）年4月～昭和44（1969）年3月は、サンプル数（当該期間に集団予防接種に従事した者の数）が少ないことに留意。

(3) 被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒

①注射筒のアルコール綿を用いた消毒の実施の有無(小さい番号の選択肢を優先した集計)

被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒の実施の有無については、「アルコール綿による消毒をしていた」(9.2%)「アルコール綿による消毒をしていない」(25.9%)であった。¹⁴

図 3-22 被接種者ごとの注射筒のアルコール綿を用いた消毒実施の有無

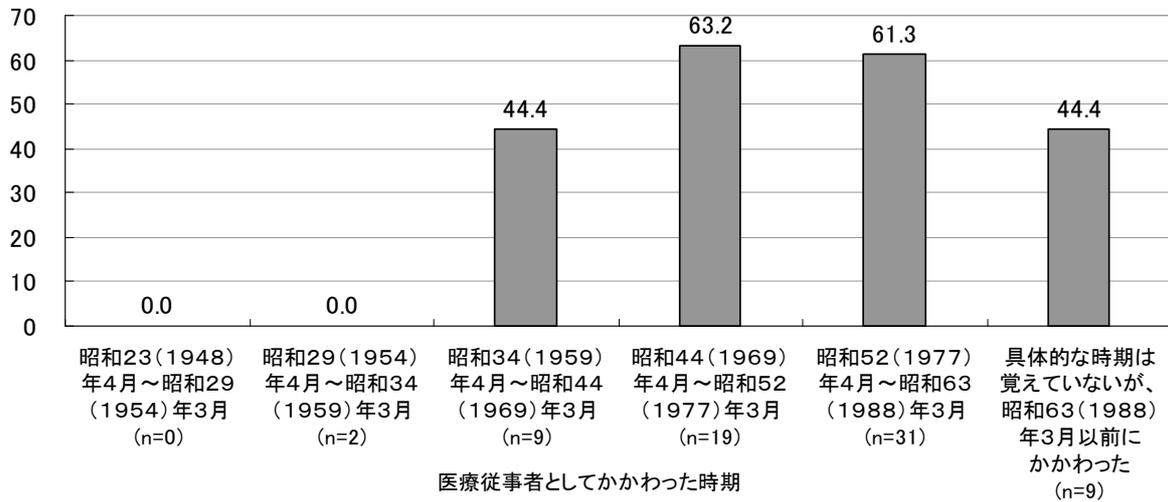


¹⁴ 「アルコール綿による消毒をしていない」との回答には、「デイスポーザブル製品の使用」「交換・加熱消毒（乾熱、蒸気、煮沸滅菌）の実施」を行ったケースが含まれる。

②集団予防接種にかかわった時期のアルコール綿を用いた消毒の実施状況

集団予防接種にかかわった時期別のアルコール綿を用いた消毒の実施状況について見ると、サンプル数が少ないことに留意する必要があるが、「昭和34（1959）年4月～昭和44（1969）年3月」の時期以降実施されている。

図 3-23 医療従事者としてかかわった時期とアルコール綿を用いた消毒を実施していた時期



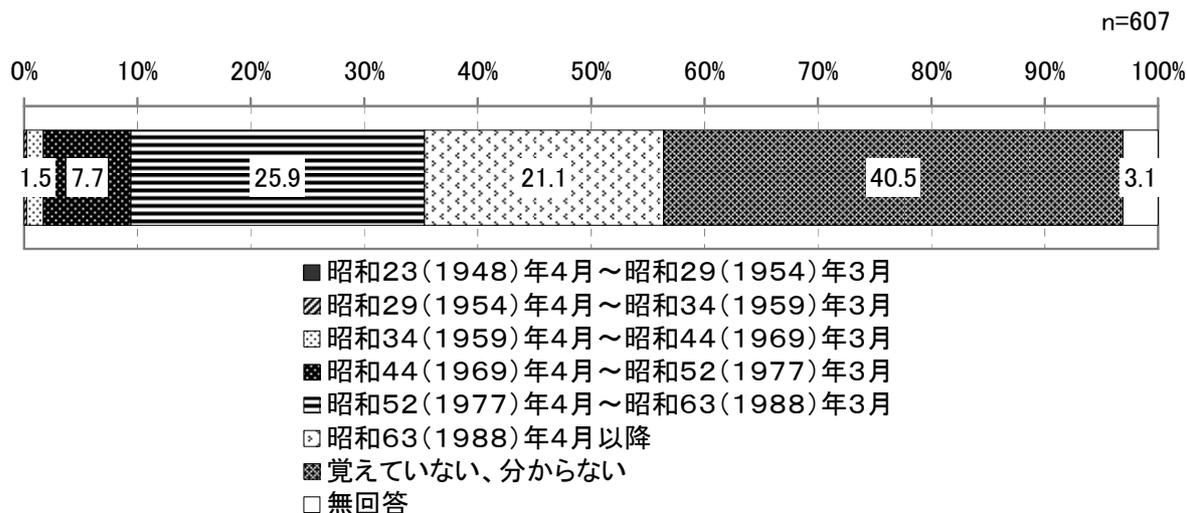
※ 図中「かかわった時期」の n は、「アルコール綿による消毒をしていた」と回答した者のうち、当該期間にかかわっていたと回答した者の数。複数期間にまたがって従事していた者がいることから、n の合計は「アルコール綿による消毒をしていた」と回答した者の数より多くなる。

3.5 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルスの感染の症例把握

(1) 症例報告の把握時期

症例報告を把握した時期については、「昭和52(1977)年4月～昭和63(1988)年3月」(40.5%)が最も多く、次いで「昭和29(1954)年4月～昭和34(1959)年3月」(25.9%)、「昭和44(1969)年4月～昭和52(1977)年3月」(7.7%)であった。

図 3-24 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルス感染の症例報告を把握した時期

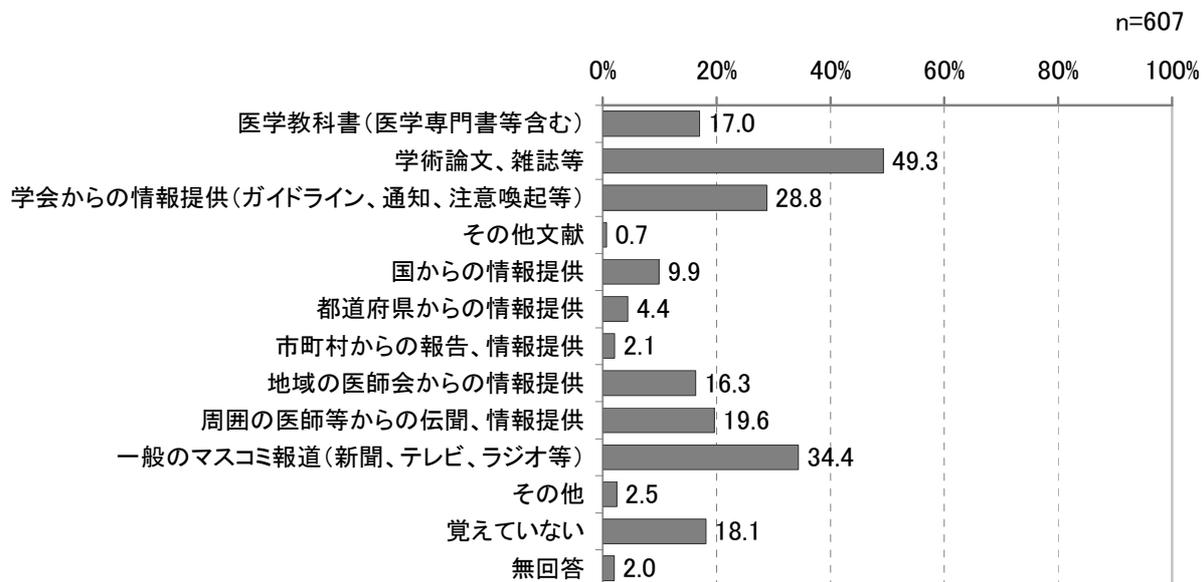


	サンプル数	昭和54年4月2～昭和31年2月9日(81)	昭和54年9月2～昭和31年3月9日(454)	昭和56年9月3～昭和31年4月9日(459)	昭和57年7月4～昭和31年5月9日(269)	昭和58年8月5～昭和31年6月9日(377)	昭和54年4月以降(19)	覚えていない、分からない	無回答
合計	607	0	1	9	47	157	128	246	19
		0.0	0.2	1.5	7.7	25.9	21.1	40.5	3.1

(2) 症例報告を把握した情報源

症例報告を把握した情報源については、「学术论文、雑誌等」(49.3%)が最も多く、次いで「一般のマスコミ報道(新聞、ラジオ、テレビ等)」(34.4%)、「学会からの情報提供(ガイドライン、通知、注意喚起)」(28.8%)であった。

図 3-25 集団予防接種等によるB型肝炎ウイルス感染の症例報告を把握した情報源



(3) 自身が関わった事例

自身が関わった事例の把握については、「把握していた」が 6.3%、「把握していなかった」が 65.9%であった。

